



DK VOICE 4

第41期第2四半期 VOL. 4
株主通信 2013年4月1日
2013年9月30日

01

ご挨拶



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで当第2四半期は、厳しい事業環境の中で、当初の予想を上回る業績を収めることができました。ここにその取り組み及び成果をご報告申し上げます。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2013年12月

代表取締役社長 栢森 秀行

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策により企業の業況判断や雇用情勢は改善されるなか、設備投資や個人消費は持ち直しの動きが見られ、デフレ状況から緩やかに回復しつつあります。

当社グループが携わる余暇産業であるパチンコ業界におきましては、まだ波及効果は出てきておらず、パチンコ遊技機では、依然として4円貸しパチンコの稼動が低下しており、顧客であるパチンコホールでは、厳しい状況が続いております。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、ファンに向けたホール環境の遊技性向上を目指した情報公開機器「BiGMO」や「IL-X」の拡販とCRユニット「VEGASIA」の販売強化に努めました。また全国主要都市において展示会「MIRAIGATE2013～次世代エンターテインメント・ホールづくりの新基準～」を開催し、多くのホール関係者が来場され、高く評価をいただきました。制御システム事業におきましては、「顧客への貢献」を目指して、演出ユニットの企画提案活動や、グループ会社を含めた開発ラインの増強を図り、企画開発力強化に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高258億82百万円(前年同期比6.4%減)、営業利益24億87百万円(同31.0%減)、経常利益25億59百万円(同31.3%減)、四半期純利益15億43百万円(同28.7%減)となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、主に仕入債務の減少や法人税等の支払による現預金の減少、前第3、4四半期連結会計期間に比べ当第2四半期連結累計期間において売上が低調に推移したことによる受取手形の減少により、前連結会計年度末に比べ80億94百万円減少の486億11百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、主に前第3、4四半期連結会計期間に比べ当第2四半期連結累計期間において仕入計上が少ないことによる仕入債務の減少及び未払法人税等の減少により、前連結会計年度末に比べ86億11百万円減少の176億55百万円となりました。

当第2四半期連結会計年度末の純資産は、配当金の支払より当四半期純利益が大きかったことによる利益剰余金の増加により、前連結会計年度末に比べ5億16百万円増加の309億55百万円となり、自己資本比率は63.7% (前連結会計年度末比10.0ポイント上昇) となりました。

通期の業績見通しにつきましては、2013年5月13日に発表しました連結業績予想からの修正はありません。

●通期予想及び第2四半期連結累計期間における業績進捗率 (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期 連結累計期間	25,882	2,487	2,559	1,543
通期予想	51,000	4,000	4,000	2,000
進捗率 (%)	50.7	62.2	64.0	77.2

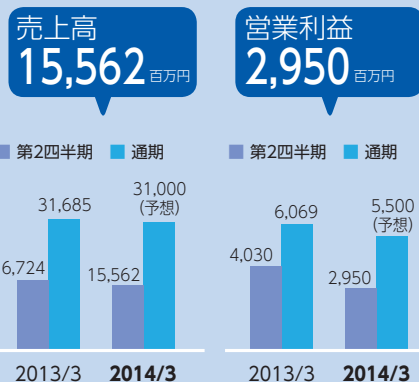
本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。したがって、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

セグメント別の状況

当第2四半期の営業概況

対処すべき課題と通期の見通し

情報システム事業



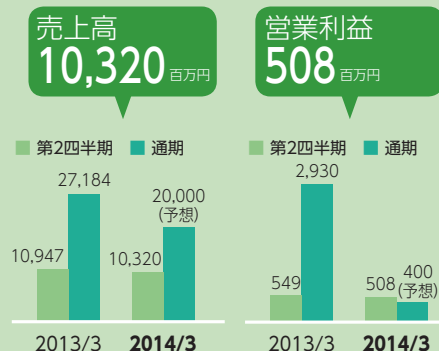
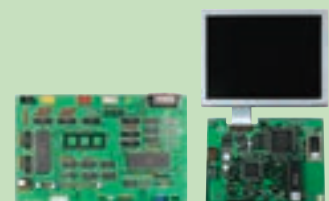
ホール店舗システムと一体となりセキュリティや効率的な運用を評価されたCRユニット「VEGASIA」及び遊技台の多様なゲーム性をファンに分かりやすく伝える情報公開機器「BIGMO」、呼出ランプ「IL-X」等が引き続き市場に評価されました。また、ホール支援サービス「CIIスタンダード」もサービス内容の充実を図り顧客満足度の更なる向上を図りましたが、新製品リリースにより大きく売上を伸ばした昨年実績には及びませんでした。

この結果、当事業の売上高は155億62百万円(前年同期比6.9%減)、セグメント利益は29億50百万円(同26.8%減)となりました。



CRユニット「VEGASIA」や情報公開機器の拡販に努め、MIRAIGATEサービスを更に強化し、より強いホール経営サポート体制の構築により顧客満足度の向上を図るなか、次世代主力製品群開発への積極投資を開始します。売上高310億円(前期比2.2%減)、営業利益55億円(同9.3%減)を計画しております。

制御システム事業



企画提案力の強化及びグループ会社との融合による開発ラインの増強に努めました。

この結果、当事業の売上高は103億20百万円(前年同期比5.7%減)、セグメント利益は5億8百万円(同7.5%減)となりました。



『顧客への貢献』を第一に考えたなかで、体制見直しにより企画提案力や開発の品質を追求し、顧客からの信頼が向上するよう努めてまいります。売上高200億円(前期比26.4%減)、営業利益4億円(同86.3%減)を計画しております。

03 財務データ

第2四半期連結損益計算書(要旨)

科目	当第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	前第2四半期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで	前期 2012年4月1日から 2013年3月31日まで
売上高	25,882	27,665	58,861
売上原価	17,703	18,557	40,082
売上総利益	8,179	9,108	18,778
延払販売未実現利益戻入	12	9	21
延払販売未実現利益控除	—	24	24
差引売上総利益	8,191	9,093	18,776
販売費及び一般管理費	5,704	5,490	11,753
営業利益	2,487	3,603	7,023
営業外収益	105	165	292
営業外費用	33	43	71
経常利益	2,559	3,725	7,244
特別利益	—	44	44
特別損失	45	120	472
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,514	3,649	6,816
法人税、住民税及び事業税	286	1,684	3,333
法人税等調整額	685	△200	△682
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	1,543	2,166	4,165
少数株主利益	—	3	3
四半期(当期)純利益	1,543	2,162	4,161

販売費及び一般管理費

前年同期に比べ2億13百万円増加しておりますが、それは主に情報システム事業において、新製品の展示会を前期では第4四半期会計期間に行っておりましたが、当期において第2四半期会計期間に行ったこと、制御システム事業においては、新機種の販売により前年同期に比べ販売促進費等の販売費が増加したことによります。

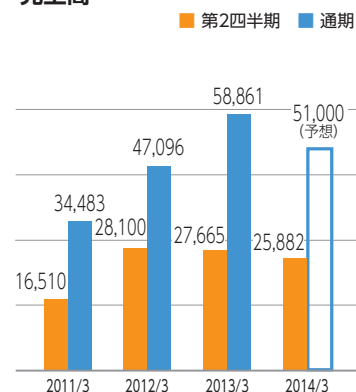
営業外収益

前年同期に比べ59百万円減少しておりますが、それは主に保険受取金や受取分配金の減少によるものです。

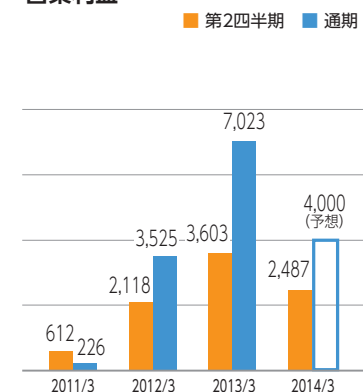
特別損失

前年同期に比べ74百万円減少しておりますが、それは主に減損損失がなかったことによります。

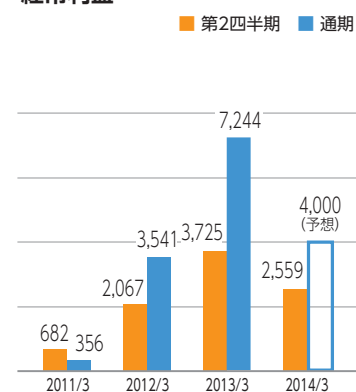
売上高



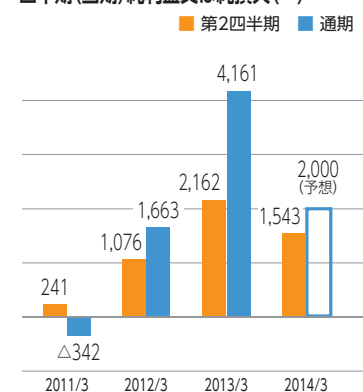
営業利益



経常利益



四半期(当期)純利益又は純損失(△)

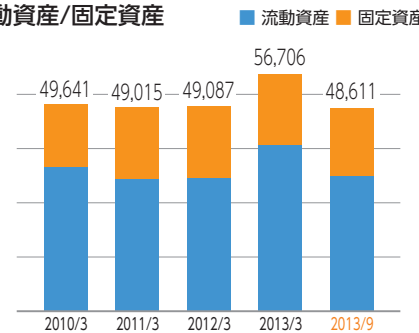


(単位：百万円、単位未満は切捨て)

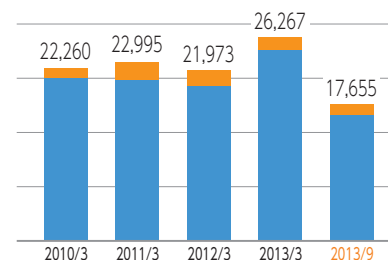
第2四半期連結貸借対照表(要旨)

科目	当第2四半期末 2013年9月30日現在	前第2四半期末 2012年9月30日現在	前期末 2013年3月31日現在
資産の部			
流動資産	32,443	35,750	39,789
固定資産	16,168	16,740	16,916
有形固定資産	9,280	9,640	9,506
無形固定資産	1,633	1,615	1,752
投資その他の資産	5,255	5,484	5,657
資産合計	48,611	52,490	56,706
負債の部			
流動負債	16,192	21,827	24,544
固定負債	1,463	1,929	1,722
負債合計	17,655	23,756	26,267
純資産の部			
株主資本	30,940	28,729	30,432
資本金	674	674	674
資本剰余金	680	680	680
利益剰余金	29,587	27,376	29,079
自己株式	△0	△0	△0
その他の包括利益累計額	15	3	6
純資産合計	30,955	28,733	30,439
負債純資産合計	48,611	52,490	56,706

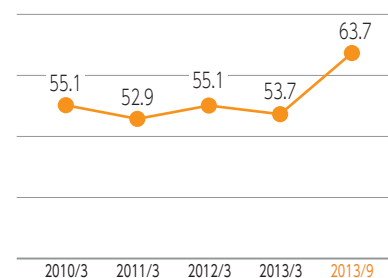
流動資産/固定資産



流動負債/固定負債



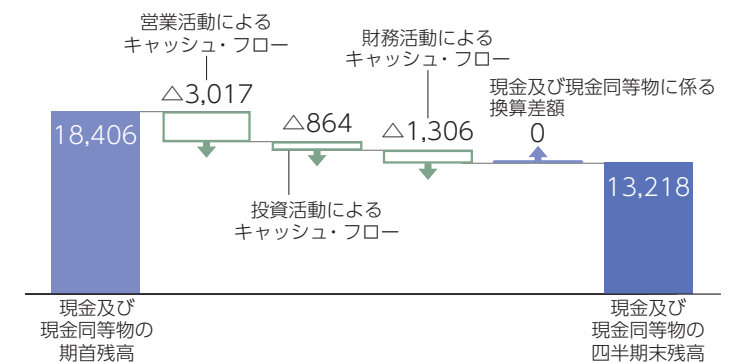
自己資本比率 (%)



第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	前第2四半期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで	前期 2012年4月1日から 2013年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△3,017	3,182	9,600
投資活動による キャッシュ・フロー	△864	1,752	2,153
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,306	△6,468	△7,003
現金及び現金同等物に 係る換算差額	0	△0	0
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△5,187	△1,533	4,750
現金及び現金同等物の 期首残高	18,406	13,655	13,655
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	13,218	12,121	18,406

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



05 トピックス

新製品の発表、展示会やセミナーの開催など ダイコク電機の「今」をお伝えします。

NOW 「MIRAIGATE2013」 ～次世代エンターテインメント ホールづくりの新基準～

2013年8月21日の名古屋会場を皮切りに、東京、福岡、大阪の全国4会場、延べ6日間にわたり、ダイコク電機展示会&セミナーを開催いたしました。

今年の展示会は11月11日発売の新製品である情報公開端末「BIGMO PREMIUM」をメイン製品として掲げ、ホールづくりの新しい基準として欠かせないメイン製品になりうることをDJによるプレゼンショーで具体的なイメージとして提案し、来場されたお客様全員にその存在を体感していただきました。

「近未来ZONE」では、参考出品として次世代タブレット端末、次世代ランプなど今までに無い製品を数多く展示・提案し、来場者からは早い段階での市場投入を期待される声を多数いただきました。

今年はセミナーに外部講師としてエレガント・マナーズスクール学院長の平林都先生をお招きし、「また来なくなる接遇の極意」という題材で講義をしていただきました。

全会場で過去最高となる2,850名ものお客様にご来場いただき、非常に活気あふれる展示会となりました。今後もダイコク電機の総力を結集し、製品開発により一層注力してまいりますので、どうぞ皆さまご期待ください。



NOW DK-SISセミナー 「イノベーションを引き起こせ！知って得するデータ管理の最先端」

今回は「イノベーションを引き起こせ！知って得するデータ管理の最先端」とタイトルを掲げ、他店との競争力を落とさずに、ホール企業の経費の中で大きな割合を占める新台入替の頻度を減少させ、営業利益の向上及び最大化のための施策を提案しました。

パチンコでは、各店舗で軸となる「花形機種＝お勧め商品」のシェア拡大の重要性を解説し、主力となる機種の特徴とデータ活用のポイント及び、注目度が徐々に増してきているハネモノ特有のデータを管理する重要性について説明しました。また失敗の少ない新台入替を実施するために、導入からできるだけ短期間で使える機種かどうかを見極めることの重要性を解説し、ファンの遊技時間を把握できる顔認証システム[C II-FACE]を提案しております。

パチスロにおいては、これまでも提唱してきた「高い貢献度を残しやすい機種5つのポイント」を振り返り、新機種のモード特性速報などの新コンテンツに絡めて解説しました。さらに、メイン機種のモード戦略として特定日に焦点を当て、高いモード配分の提供が効果的である機種とそうでない機種の特徴を伝え、日々の営業戦略に盛り込むことを提案しました。

各会場の来場者数が過去最高を記録したことは、当社の展示会やセミナーに対する期待度の高さによるものであると肝に銘じ、今後も参加企業の業績向上に繋がる提案を発信し続けるように努めてまいります。



NOW 「DK-SIS白書2012」発刊

このたび当社は創刊の「DK-SIS白書2003」から数えて節目の10冊目となる「DK-SIS白書2012」を発刊いたしました。本書は、市場シェアの約27%にあたる122万台分もの膨大なホールの営業データを日々集計・分析し、1年分の情報を集約したものです。

本書では、歯止めがかからないパチンコホール総粗利の減少に関して、その要因である構造的な問題点を取り上げ、中長期視点にたった改善策の提案を行っております。市場の動きとしては、継続している4円パチンコの業績低迷のみならず、5号機へ完全移行後最高を記録したパチスロの業績が2012年の後半には下落に転じており、この失速の理由は出玉の瞬発性能が高い遊技機の登場により投資ペースが上昇し、ファンがそのペースについていけなくなったためであると考えております。

また、行政から「適切な賞品提供の徹底の通達」や「広告宣伝に関する再通達」があった点を取り上げ、法令順守に対する取り組みを業界全体として再度徹底する必要性についても提言しております。

今後も、市場の変化を把握、認識、理解するためだけでなく、その変化に対応するためのツールとして、DK-SISならびに本書がホール経営企業の皆さまの一助となることを願っております。



「DK-SIS白書2012」

NOW 「名証IRエキスポ2013」に出展

2013年7月19日(金)・20日(土)の両日、名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)にて行われた名古屋証券取引所主催の「名証IRエキスポ2013」にブース出展いたしました。今回で連続10回目の出展となるこのイベントは今年も盛況で、2日間で7,800名もの来場者がありました。

当社ブースでは説明会形式と対面形式を行い、個人投資家の方々に当社の説明をさせていただきました。今年も約300名の皆さまに当社の事業内容やパチンコ業界の現状、当社の決算の状況などについての説明を聞いていただき、株主や個人投資家の皆さまとのコミュニケーションの場として大変有意義な出展となりました。貴重なご意見、ご協力ありがとうございました。

今後も継続してIR活動を行い、当社の知名度・認知度向上に努力してまいります。



「名証IRエキスポ2013」

会社概要

商号	ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD.
創業	1964年12月
設立	1973年 7月
資本金	6億7千4百万円 (発行済株式総数14,783,900株)
本社	名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
従業員数	(単独) 439名 (連結) 597名
事業内容	パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売
決算期	3月31日
事業所	4事業所、4支店、13営業所
関係会社	元気株式会社、DAXEL株式会社

役員

代表取締役会長	栢 森 雅 勝
代表取締役社長	栢 森 秀 行
代表取締役専務	栢 森 健
取締役	丹 羽 時 重
取締役	根 本 弘 治
取締役	吉 川 幸 悟
取締役	佐 藤 信 啓
取締役	栢 森 徳 丸
取締役	國 保 芳 寛
取締役	足 立 幹 夫
常勤監査役	伊 東 泰 志
監査役	村 橋 和 憲
監査役	田 島 和 憲

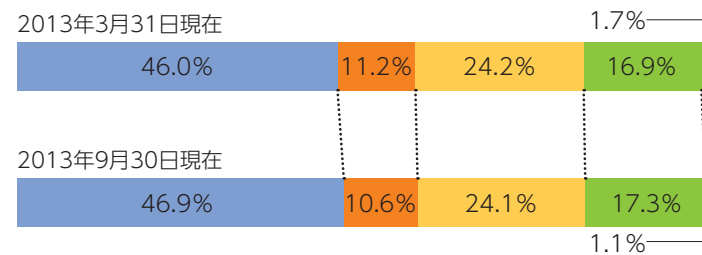
(注) 1. 取締役 國保徳丸氏、足立芳寛氏は社外取締役であります。
2. 監査役 村橋泰志氏、田島和憲氏は社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数	66,747,000 株
発行済株式総数	14,783,900 株
株主数	3,824 名

所有者別株式分布状況

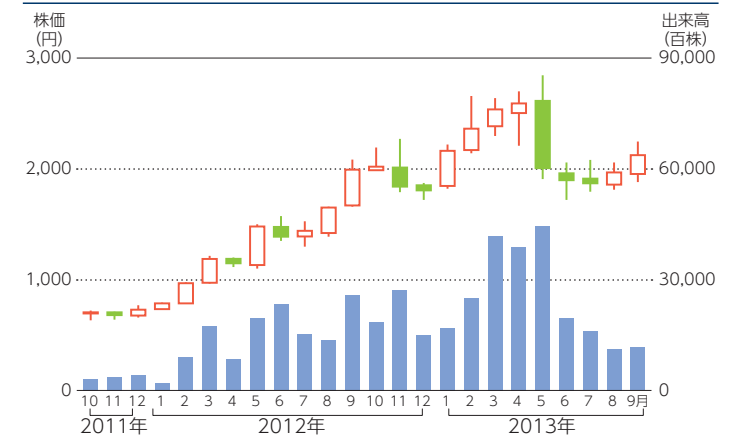
	2013年9月30日現在		2013年3月31日現在	
	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)
■ 個人・その他	6,940,095	3,578	6,800,731	2,920
■ 金融機関	1,569,900	24	1,656,600	25
■ その他国内法人	3,557,100	52	3,583,100	51
■ 外国人	2,557,767	133	2,496,177	122
■ 証券会社	158,550	36	246,804	31
■ 自己名義株式	488	1	488	1
合計	14,783,900	3,824	14,783,900	3,150



大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢森 健	1,772,200	11.98
栢森 雅勝	1,518,050	10.26
栢森 秀行	1,034,700	6.99
栢森 美智子	926,000	6.26
栢森 寿恵	813,350	5.50
公益財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 新治	443,450	2.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	355,000	2.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	332,000	2.24
栢森 和代	311,000	2.10

株価及び出来高の推移



■ 電子メールによる当社IR情報の配信

当社は、投資家の皆さまへ電子メールによるIR情報配信サービスを提供しております。ご登録いただいた皆さまには当社ホームページ (<http://www.daikoku.co.jp>) に新しい情報が掲載されたことをご知らせします。IR情報配信サービスをご希望の方は、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信」ボタンから、簡単にご登録いただけます(無料)。

www.daikoku.co.jp/ir

ダイコク電機 IR

検索



IRメール配信



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日	郵便物送付先	〒168-0063
定時株主総会	6月下旬	電話照会先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告いたします。	取次事務は	三井住友信託銀行株式会社の 本店及び全国各支店で行っております。
一単元の株式数	100株	公告方法	電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	公告のホームページアドレス	http://www.daikoku.co.jp
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		

配当金受取方法等について

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

* 確定申告をなされる株主さまは、大切に保管ください。

株主さまのご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施にともない、株主さまのご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部又は一部をほふりが指定した文字又はカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主さまにご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主さまのご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株券電子化後の配当金受取方法のお取扱い

株券電子化により、従来の配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主さまの保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能となります。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問い合わせください。